



冬(なんてん)

花四題より 昭和14年

自然の花が乏しい冬場、常緑樹のマツを台木に白いネコヤナギとナンテンの赤い実が添えられた挿し花を花売りの娘たちが売り歩く。白一色の世界に際だつ鮮やかな色使い、雪国秋田の懐かしい姿を伝えています。



秋田が誇る版画家・勝平得之の展示空間です

ひとびとの心を描く 勝平版画の魅力

勝平版画の作品にはどれも郷土を愛する気持ちが込められています。北国秋田の生活、それは何気ない日常のひとコマですが、勝平の手にかかれば風情ある作品に仕上げられていきます。この地に住んでいたからこそ、人々の心の奥まで表現することができたので



しょう。人間の表情、細部にまでこだわった彫りと斬新な色づかい。そして、作品からにじみ出る秋田の素朴さやたくましさ、勝平版画の魅力です。

なお、一月六日から四月八日まで、「勝平得之と雪国の子どもたち」と題して記念展を開催します。寒さに耐えながらも、いきいきと暮らす子どもたちをご覧ください。

問い合わせ 赤れんが郷土館

☎(864)6851

かきだて

秋田風俗十題より 昭和18年

かきだてとは雪囲いの意味で、囲いの中には雪国独特のかぶりものや履き物が描かれています。ほんでき棒を手にし、外をうかがう少女たちの姿が愛らしい作品です。

